

2023年6月5日

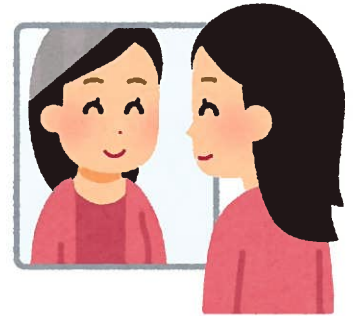


# 『朝礼時法話～報告事項』

## (1) 講話概略【ため息は体に毒、笑顔は体の薬】

先月の朝礼でもご案内しましたが、リレーフォーライフ北上が来る6月10日(土)に開催されます。リレーフォーライフは全国の沢山の場所で行われていますが、まだ北上で開催される10年ほど前にがん患者であった茨城県の看護師さんが岩手県のがんと向き合うフォーラムに訪れた事がありました。

彼女は当時45歳だったと記憶していますが、末期がんを持ちながら岩手に入り、座談会の場でこうご挨拶されました。



私、名前は〇〇と言います。“普通のがん患者”です。末期がんです。宜しくお願いします。』

あまりに爽やかなご挨拶と中身のギャップに驚いて、彼女のお話しに引き込まれていった事を思い出します。彼女は笑顔を浮かべたまま、淡々と続けました。

末期がんで、余命宣告をこの2年で3回も受けたんですよね。この前、3回目の告知を受けた所なんですけど、こうやってしぶとく生きています(笑)。最初の告知の時は、本当にショックで、絶望感に苛まれていました。“何で私なの？まだまだやりたい事もある。親より先に逝くなんて…”って運命を憎んで、泣いて泣いて泣きまくりました。そうやって泣いて過ごしていく内に、ある時、ハッと我に返ったんです。このまま泣いて過ごしていたら勿体ないよね。残された時間、泣いて過ごすより笑って過ごそうって決めたんです。そしたら、それまで真っ暗だった景色が明るく見えて、いろんな事が感じ取れるようになったんですよね。

抗がん剤治療のために入院すると、体が辛くて、何度もナースコール鳴らしてしまうんですけど、自分が患者になる前は、何度もナースコール鳴らず患者さんがいると、“はあ～、また鳴らしてる！”ってイライラしてしまっていた自分が居たんですよね。でも、自分が患者になってみて分かったんです。苦痛に耐えられなくなると藁にもすがる思いでナースコール鳴らすもんなんだよなあ…って。そしてもう一つ気づいたのが、病院にも色々なタイプの看護師さんがいるんですけど、ひどい看護師さんなんかはナースコール鳴らすと部屋にため息つきながら入って来るんです。“はあ…”って大きいため息ついた後、私を覗ずに点滴と機械のほうばかり触りながら、“点滴だんだんと効いてくると思うので、それまでは辛いと思いますので…。はあ…。”って、捨てゼリフとため息ついて出ていくんです。すると、すごい体にこたえてさらに苦痛を感じるんですよね。ため息は体に毒だなあって思う。でも、真逆に優しい看護師さんも居て、部屋に入ると、“痛むんですよねえ、辛いですよねえ。お薬効いてくれるといいんですけどねえ。”って微笑み掛けてくれて、“どの辺が痛むんです？”って体をさすってくれたり…。すると、不思議と痛みや辛さが和らく感じになるんです。“笑顔は体の薬”です。

笑顔で話してくれた彼女の姿を尊く感じたものでした。彼女はその1年後、ご逝去されるのですが、最後の時間まで精いっぱい笑顔を会いに行った人たちに見せ続けてくれていたとの事でした。

私たちもいつ何時、病気になったりケガをするか、人生どうなるか分かりません。ため息もつきたくなる事も沢山ありますよね。ため息はついて構いません。ただ、ため息をつく場所は気をつけたほうがいいので、控室とか休憩している場所でため息をついて(深呼吸的に)、お年寄りの前に行った時は笑顔を見せられる、そんな光寿会でありたいと願っています。今日1日も笑顔で宜しくお願い致します。

## (2) 連絡事項について

① 事務のK. Tさんが体調面の事などで7月いっぱい退職となります。まだ2ヶ月あります。今まで通り声を掛けていただいて、この2ヶ月、大切に過ごして参りましょう。

【講話、連絡事項 = 理事長】